

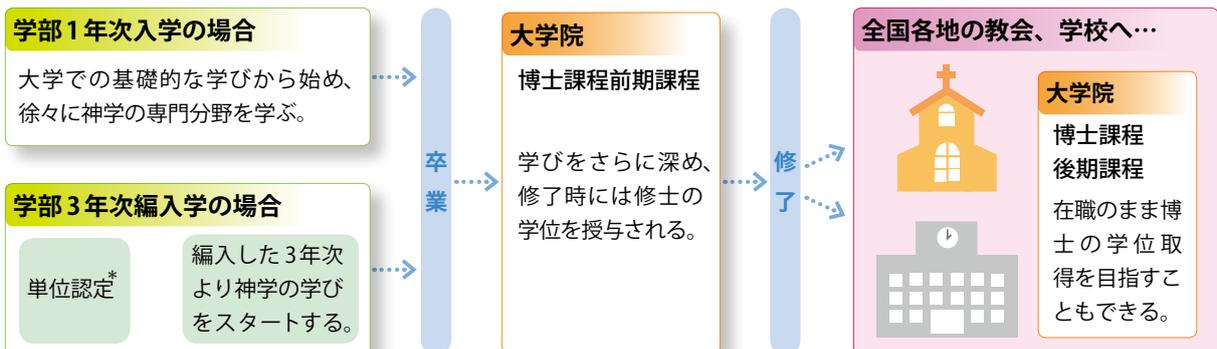
伝道者を目指す “召命共同体”

「召命」とは、「神さまの召し」「呼びかけ」です。ここで学び、教えるすべての者が、自己実現を目指すのではなく、神さまの招きと呼びかけに応じて神学の学びを志し、将来伝道者となるという決断を与えられたということです。入学試験では召命の有無を問われます。入学後も少人数教育によってさらに召命を確かめ合い、教師と学生が互いに切磋琢磨していく学び舎は、“召命共同体”にふさわしい場所となっています。また、学部から大学院までの一貫した神学教育プログラムを提供しているため、ほとんどの学生が、学部1年生から入学した場合は学部4年間と大学院2年間の計6年間、学部3年生から編入学した場合は学部2年間と大学院2年間の計4年間かけて神学を学びます。

教会による 教会のための 合同神学校

東京神学大学は、多くのプロテスタント諸教派の神学校が合流してできた合同神学校 (Union Seminary) です。神学教育機関として各神学校の伝統を引き継ぎつつ、日本のプロテスタント諸教会が総力を注いで育んだ高度な神学教育を提供しています。そのために、東京神学大学は「教会による、教会のための大学」と呼ぶことができ、神学生の必要経費の約半分は全国の諸教会の献金で支えられ、卒業後は、教会やキリスト教主義学校に仕える伝道者になります。また「神学校と教会は車の両輪である」という理念が掲げられ、教会での礼拝・奉仕・交わりの生活や牧師の指導のもと、教会に仕える訓練が大学の学びと同様に重視されます。

大学院まで一貫したプログラム



*他大学での履修状況により異なる。

キリスト教学校

にも
遣わされる

キリスト教学校に派遣されて若い魂に福音を語ることも、伝道者や牧師の働きです。本学の大切な使命の1つとして、プロテスタントのキリスト教主義中学校・高等学校における宗教科・聖書科の教師（教務教師）を養成することも挙げられます。本学では、神学教育プログラムと並行して教育職員免許状取得のための課程があり、これまでも多くの教師を送り出してきました。彼らの学校での働きの中からも、次世代を担う受洗者、献身者が起こされています。

教育職員免許状（宗教）の取得が可能

本学の教職課程は1954年に設けられ、今日まで多くの優れた聖書科教師を輩出してきました。免許状は、教会付属幼稚園の園長となる際にも有効に用いられています。さらに、免許状を取得した卒業生の多くは、教会と良い関係を築き上げ、伝道に貢献するだけでなく、キリスト教教育を通して、公教育にも貢献してきました。本学の教職課程は、キリスト教主義学校において教育と伝道の業に励みつつ、建学の精神を実質的に担う教師を養成することを目標としています。

- ・中学校教諭一種免許状（宗教）
- ・中学校教諭専修免許状（宗教）
- ・高等学校教諭一種免許状（宗教）
- ・高等学校教諭専修免許状（宗教）

東京神学大学後援会の働き

皆の夢と期待を
この世の行為に
変換して捧げられる

東京神学大学に入学した方は、送り出した教会の皆さんから直ぐに神学生と呼ばれます。献身して伝道者、牧師として生涯歩もうとされている方に期待と羨望の眼と少しの心配の心を抱きながら使う言葉です。間もなくそれは心の中で主への祈りと変わります。眼を開け、祈った心は献金となります。後援会はそうした献金を集めて東神大に届ける奉仕をしています。集め方もいろいろです。教会でまとめて、あるいは個人として、毎月の方も、まとめての方もいます。呼びかけもします。皆、喜び感謝で満たされています。学報をご覧ください。

後援会長 銀座教会信徒 岩澤 嵩

